

2025 (R7) 年度前期「生徒による授業評価アンケート」の後期に向けた改善案

- 【国語科】 現代の国語や論理国語など評論を扱う科目の場合、単元のはじめに示す目標をわかりやすく設定することで学習効果を高められると考えた。また、古典探究や文学国語のように創作された文章を味わう科目の場合、読解が深まる実感を生徒に与えることを目標に、授業展開や発問を工夫して改善したい。
- 【地歴公民科】 地歴科・公民科共に「身についたことやできるようになったことを実感できた」という項目の数値が最も低かった。導入時の課題の提示と振り返りを意識的に行い、知識分野についてICT等も活用し効率よく教授することで、与えられた課題を授業で学んだ知識を活用して適切に解決できるよう指導していく。
- 【数学科】 数学科として、各科目の特性を踏まえた授業改善を図る。授業のねらいや振り返りを明確にし、ペア・グループ活動を通じて他者の考えに触れる機会を増やす。演習中心の科目では、問題解説や別解の共有を取り入れ、理解の定着と思考の深化を促したい。
- 【理科】 理科全体では、自分の考えをまとめたり解決方法を考える機会についての項目や、それまでに学んだことと関連づけて理解できるかといった項目の平均値が高かった。後期に向けては、学んだことを他の生徒と共有したり、考えを深めたりする機会を設けていきたい。
- 【保健体育科】 基本的な知識技能を確実に身につけさせ、身についたことやできるようになったことを生徒が実感できる授業を引き続き展開していきたい。また、個人の学習課題について深く考えたり、解決方法を考えたりすることで課題解決力を向上させる授業展開もさらに増やしていきたい。
- 【芸術科】 目標を持って授業に取り組み、できるようになったことを実感している一方、他者の考えを知り自分の考えを広げ深めたりまとめたりする場面が少ないと感じている。後期はそのような場面を更に設け、芸術を通して自己の成長を感じられるようにしたい。
- 【英語科】 アンケートの結果、特にQ1の得点が全教科平均から1点低いことが分かった。教科としてこの事実を共有し授業の前にねらいを示し、振り返りの時間を設けられるようにしていきたい。また授業内で、ディベートやプレゼンテーションのような言語活動をより多く行いたいと考える。
- 【家庭科】 3つの科目で共通している項目として、“自らの考えを広げ深める”項目の数値が低く、“できることになったことを実感できた”が高くなっている。実技は意欲的に取り組む様子が見られるが、思考させる場面での工夫が必要である。今後は振り返りの時間を確保したり、問いを増やし自ら考えさせる場面を増やしていく。
- 【情報科】 楽しい・わかりやすいなどのコメントが多く、授業に取り組む姿勢も概ね良好と思われる。グループワークやペアワークを増やし、情報を共有する機会を多くして、知識の定着と思考力の向上を目標に、最後までやり抜く力を養うようしっかり取り組みたい。